



買い物難民2025年1千万人

高齢者の運転免許証の自主返納や住民減少による公共交通機関の路線減少などによって、高齢者の移動手段は減りつつあります。農林水産省は、買い物難民が増えている原因として、高齢者人口の増加に加え、飲食料品店が減少していることや大型商業施設の立地場所が郊外化していることなどを挙げています。この傾向が続く限り、高齢者の買い物難民の増加は避けられない状況にあり、このままでは2025年には日本全体で1千万人の買い物難民の発生が危惧されます。そのため、高齢者の移動手段の確保が全国的に地域の重要課題となっています。



そこで、一部の地方自治体では地域に密着したコミュニティバスの運行などの取り組みを進めています。小型トラックに生鮮食品や生活雑貨などの商品を載せて移動販売する「移動スーパー」というサービスも出てきています。一方で、「気兼ねすることなく自分のペースでスーパーなどに買い物に行きたい」という方も多く、運転免許証を自主返納した高齢者でも安全に利用できる一人乗りあるいは二人乗りの超小型車両の需要も高まっています。

高齢者のためのシニアカー・電動車いす

【シニアカー】【電動車いす】は要介護2以上の方が介護保険レンタルできる運転免許証を必要としない移動道具ですが、要介護1以下の方や介護認定のない方でも自費レンタルあるいは購入により利用可能です。スタイリッシュな電動車いすもありますが、今回は3輪・4輪で走行安定性の高いシニアカー(電動カート)についてご案内させていただきます。

移動手段がなくなると外出機会が減ると社会参加の機会が減り、家に引きこもってしまう時間が増えることにもなります。身体機能の低下に加え、認知症発症の引き金にもなりかねません。介護認定を受けている方、そうでない方も参考に検討されている方も参考になるかもしれせん。

シニアカー(電動カート)

- ①座るところが狭く、ハンドル操作で運転する一人乗りの乗り物です。アクセルペダル、ブレーキペダルは最高で時速6kmまでと定められています。(成人の早歩き相当)
- ②運転免許証不要の歩行者扱いになるため、走る場合は歩道を走るのが基本。
- ③走行可能距離は20kmから30km(近場の外出には十分と思われれます)
- ④荷物を入れるかごが付けられます。
- ⑤商業施設への乗り入れは、可能とするお店が多いですが、非対応施設もありますので、近所の施設は事前確認をお勧めします。
- ⑦バッテリーの充電は家庭用電源で可能。充電時間は5〜7時間。
- ⑧バッテリー充電は着脱タイプと直接充電タイプがあります。着脱式バッテリーは約10kgあります。
- ⑨前進と後進機能があります。
- ⑩屋根がないものが多く、雨天時の外出はできません。
- ⑪レンタル料1万〜2.5万円。介護保険利用の場合は負担割合に応じてその1割から3割負担。
- ⑫購入費用20万から50万円、高価格帯ほど機能が充実。
- ⑬幅は65〜80cm、長さ110cm〜130cm
- ⑭登坂可能傾斜10度程度

なお、レンタルの場合は損害保険が最初からセットされていますが、購入の場合は保険加入の可否を確認することをお勧めします。購入の場合でも購入希望品のレンタルがあれば、1か月程度のレンタル試用をお勧めします。また、免許証返納等を条件に10万円程度の購入補助をしている市区町村もありますので、購入前に確認してみてください。



シニアカー利用の注意点

シニアカーを利用されている私どものお客様は、「これのおかげで外出ができて本当に助かっていて」と皆様おっしゃいます。そのようにシニアカーは便利なものですが、電動ベッドと同じく、機械に頼りすぎて体を動かすことを怠ると自身の身体能力が劣化してしまう可能性もあります。シニアカーの利用についても、ご自身の身体機能の維持を意識し、その他の手段と比較の上で検討頂ければと思います。

また、車いす利用中に発生した事故のうち7割弱がシニアカー・電動車いす利用によるものです。普通の車いす以上に安全利用に留意する必要があります。

私どもがシニアカー・電動車いすをお貸しする場合は、ご利用する方の身体能力の確認に加え、想定している行き先へ実際にお試し運転を行うなど、安全性を十分に検討した上で提供させて頂いておられます。ご興味がある方は、まずはお気軽にご相談ください。

自動運転

自動車の自動運転システムの開発は日進月歩で進んでおり、高齢者向けの電動車いすやシニアカーにおいても、近くのお店まで自動運転で往復できるという日もそう遠くない未来に実現する勢いになっていきます。羽田空港では昨年の6月から保安検査場から搭乗口まで自動運転で運んでくれる電動車いすの運用が始まっています。技術はどんどん進化していき、ますます自分の生活を豊かにする為に積極的に活用していきたいものです。

年の瀬に思う事

コロナ禍3年目の年が暮れようとしています。弱毒化しているとも言われますが、終息にはまだまだ時間が掛かるようです。それでも今までも中止されていた秋祭りが実施されるなど日常を取り戻す試みがみられます。

来年2023年はうさぎ年です。2022年の闘争や競争、いがみ合いなどは、解放される年回り一転して、ほのぼのとした雰囲気に向けての応援メッセージを添えて明るい年明けに備えましょう。

